

## 第5学年 国語科学習指導案

児童 男子5名 女子1名 計6名  
指導者 土谷 孝 則

本単元における「読むこと」の指導内容  
必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること(オ)

- 1 単元名 目的に応じた伝え方を考えよう  
教材名 「ニュース番組作りの現場から」「工夫して発信しよう」

### 2 単元について

#### (1) 児童の実態

子どもたちは、前学年までの説明的文章において「段落」や簡単な「文章の構成」について学習してきた。段落ごとに内容をとらえ、それをつなげたり比べたりすることを通して、文章の全体構造をつかむことができるようになってきている。1学期の教材「サクラソウとトラマルハナバチ」では、文章の構成から要旨をとらえる読み方を知り、筆者の考えに対して自分の考えをもつことができた。それが、「千年の釘にいとむ」において、内容を把握し、書かれてあることに対して自分なりの考えをもつことにつながった。

一人学びは、学習課題の解決に必要な部分にサイドラインを引く活動を中心に行ってきた。説明的文章の構成を理解してきたことで、自分の力で読み取りを進めることができるようになってきている。しかし、解決のための視点を明らかにして読むという意識が低く、まずは、学習課題を正確に把握することが第一である。そこから、読み取りのための着眼点を明確にすることで、一人一人が課題解決のために主体的に取り組めるようにしたい。また、読み取ったことをノートに構造的にまとめていくことも今後の課題である。

日常活動では、「はじめ」「なか」「おわり」を意識したスピーチ活動に取り組んでいる。話す場面においても、自分の考えをよりわかりやすく伝えるための構成を考えさせることがねらいである。「はじめ」「なか」「おわり」の3つの部分を効果的につなげ、自分の思いをわかりやすく伝えようとする場面の中で、説明的文章の学習で身につけた文章構成を実践的な形に広げていければよいと考えている。

これらの学習や活動を通して、伝えようとすることを論理的に理解したり、表現したりするための思考力を伸ばしていきたい。

#### (2) 教材について

第5学年及び第6学年の「読むこと」の目標は「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」ことである。説明的文章においては、筆者の述べたい内容や述べ方をとらえ、自分の意見がもてるようにしなければならない。そのためには、中学年までに学習したことを生かして、事実と筆者の意見の読み分けをすることが大切になるだろう。

本単元では「文章構成をつかみ、要旨をとらえて、ニュース番組がどのように作られるかを知り、伝えたいことと伝える方法について興味を深める」ことを目標としている。また、伝えたいことを探し、どのように伝えるかを考え、発信する活動を展開する。したがって本単元の指導においては、児童が「発信する」という見通しをもち、自分の活動に役立てられるように文章を読んでいくことが必要になる。「ニュース番組作りの現場から」に書かれた内容が、その後の「工夫して発信しよう」の活動の際の手引きの役割を果たすことになるだろう。

「ニュース番組作りの現場から」は、ニュース番組の特集の作り方についてまとめた文章である。時間に沿って、報道スタッフの役割や情報収集、編集会議のあり方、伝えたい内容の絞り込み方等がわかりやすく整理されている。その点で本教材は、番組の作り方に関する情報提供としてだけでなく、時系列に沿って大事な事柄に注意して読み取る文章としても適している。

#### (3) 指導に当たって

本単元では、指導要領「読むこと」の(オ)《必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫する》力を育成するために、次のことに気をつけて指導していきたい。

ニュース番組の作り方をとらえるという目的をもたせ、どのような活動が、どんなねらいで行われているのかを、時間進行に沿ってとらえさせる。

それぞれの段落において、報道スタッフが何のために何をしているかがわかる語句に着目させる。

一人学びにおいては、中学年で身につけた「中心」を押さえる学習を生かして、それぞれの段落の要点をとらえる活動を展開する。

## 第6学年 国語科学習指導案

児童 男子3名 女子1名 計4名  
指導者 土谷孝則

本単元における「読むこと」の指導内容

必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること(オ)

- 1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう  
教材名 「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」

### 2 単元について

#### (1) 児童の実態

子どもたちは前学年の説明的文章において、筆者の主張に興味をもって読みながら、自分の意見を持ち、話し合うという学習をしてきた。書かれている内容を事実と意見に読み分け、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができるようになってきている。1学期の教材「生き物はつながりの中に」では、前学年での説明的文章の学習で身につけた力を定着させつつ、筆者の考えに対して自分の意見を表明する学習に取り組んだ。そこでは、意識的にまとめの段落・文に着目することによって、文章の構成や論理の流れ、叙述の特徴、要旨等がより有効に理解できることを学んだ。その結果、大事な言葉を落とさずに、教材文を要約することができた。

一人学びは、学習課題の解決に必要な部分にサイドラインを引く活動を中心に行っている。どの児童も、大体できているととらえているが、課題に対して明確な答えをまとめるには、もう少し吟味が必要である。サイドラインを引いた部分がそれぞれどのようにかかわっているか、要点や要旨にどのようにつながっているか、重要語句に着目させながら、文章全体における位置づけまで論理的に考えさせたいところである。

日常活動では、新聞記事の内容に対する意見の発表に取り組んでいる。記事が読者に伝えたいことの中心をとらえ、それについての自分の考えを持つことがねらいである。「わかったこと」と「考えたこと」を区別して書き、友達に自分の考えを紹介している。自分本位の読み方で、記事の要旨と離れてしまうこともあったが、少しずつ話題を明確にした発表ができるようになってきている。説明的文章の学習で身につけた意見の述べ方を実践的な形に広げていければよいと考えている。

これらの学習や活動を通して、伝えようとすることを論理的に理解したり、表現したりするための思考力を伸ばしていきたい。

#### (2) 教材について

第5学年及び第6学年の「読むこと」の目標は「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」ことである。目的に沿った読みを展開するためには、叙述に即して内容を正確にとらえることはもちろん、情報収集の視点の持ち方や目的に応じた読み方が身につけていなければならない。そのためには、必要な情報が示されている部分を重点的に読んだり、筆者の述べ方から要旨をつかんだりする学習が展開されなければならない。

本単元では「筆者が用いている言葉や文章の構成から、『平和』についての筆者の訴えを読み取る」ことを目標としている。それをもとに、「平和」について調べたり話し合ったりすることを通して、さらに自分の考えを深めていく活動を展開する。したがって教材文を読む際には、筆者の述べ方をとらえる方法として、文章構成と語句の用い方に着目させ、筆者が訴えようとしていることを、自分なりの言葉で解釈できるようにすることが重要である。

「平和のとりでを築く」は、原子爆弾によって傷だらけとなった「物産陳列館」が、多くの人々の平和を願う心によって、世界遺産「原爆ドーム」となった経緯を述べた文章である。日本人としてぜひ知っておきたい史実と、それが世界の遺産となった意味についての筆者の考えを丁寧に読み取っていき、これからの社会のあり方は自分たち自身の問題でもあるという視点から、「平和」について考えさせたい。

#### (3) 指導に当たって

本単元は、指導要領「読むこと」の(オ)《必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫する》力を育成するために、次のことに気をつけて指導していきたい。

筆者の訴えを的確にとらえるための方法として、筆者の述べ方を読み取る指導を取り入れる。

筆者の考えが示されている語句をとらえさせ、それを用いている意図を考えさせる。

一人学びにおいては、文章構成を手がかりにして書かれてある内容を大きく読み、要点をとらえたり、書き込みを通して筆者の考えを具体的に受け止めたりする活動を展開する。

3 単元の目標及び指導計画

第5学年 目的に応じた伝え方を考えよう

「ニュース番組作りの現場から」(7時間) 「工夫して発信しよう」(8時間)

《単元の目標》

【国語への関心・意欲・態度】

- ・自分が必要とする情報をすすんで読み取ろうとする。
- ・ニュースをさがして伝えることに関心をもち、伝え方や内容を工夫しようとする。

【話す・聞くこと】

自分の伝えたいことや意図が伝わるように、話の組み立てを工夫しながら、適切な言葉遣いで話すことができる。

【書くこと】

集めた材料を、目的に合わせて整理し、加工して伝えることができる。

【読むこと】

自分たちが番組を作るために必要な事柄を時間の順序にしたがって段階ごとに読み取ることができる。

【言語についての知識・理解・技能】

文章にはいろいろな構成があることを知り、その構成の工夫をすることができる。

《単元の指導計画と評価規準》

段階	時	学 習 活 動 重要語句の取り扱い	一 人 学 び	評価規準
				国語への 関心・意欲・態度
つかむ	1	「ニュース番組作りの現場から」の範読を聞いて、初めて知ったことや興味をもったことを書き、感想を交流する。	ニュース番組作りについて、初めて知ったことや興味をもったことを書く。	教材文の内容から、初めて知ったことや興味を持ったことをノートに書いている。
ふかめる	2	教材文全体を読み、内容のまとめりで大きく3つに分ける。	内容のまとめりごとに要点の大体を押さえながら文章構成をつかむ。	これまでの学習を生かして、文章構成を考えようとしている
	3	教材文を読む視点を設定する。	ニュース番組作りを始めるにあつての問題点を挙げ、教材文を読む視点をまとめる。	活動を見通し、読みの視点を明確にしようとしている。
	4 (本時)	ニュース番組作りの手順を、表に整理する。 《会議》《取材》《2回目の》会議《さつえい》《編集》《放送用原稿》《放送》を使って、ニュース作りの手順をまとめさせる。	内容のまとめりごとに要点を押さえ、ニュース番組作りの手順をまとめる。	放送までの経過に着目して、ニュース番組作りの手順を読み取ろうとしている。
	5	番組作りの各過程で大事なことや気をつけることを読んでまとめ、番組作りの努力や願いについて話し合う。 《正確さ》《映像》《分かりやすいように》《最も伝えたかったこと》に着目させ、番組作りの過程で大事なことを考えさせる。	ニュース番組作りの各過程での様子をくわしく読む。	いい報道をするために、取材のしかたや放送原稿の書き方について学ぶことは何かを考えて読んでいる。

《単元の評価規準》

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・読み取りの視点に沿って、自分が必要とする情報を読み取ろうとしている。 ・ニュースを伝えることに関心をもち、読み取りで学んだことを生かそうとしている。	発信相手に自分の伝えたいことや意図が伝わるように、原稿の構成を工夫し、適切な言葉遣いで話している。	教材文から学んだ編集や発信の方法を生かし、材料を選んだり配列を考えたり、また写真や図表との関係も考えたりして、原稿を書いている。	テレビ放送のニュース番組の「特集」の作り方を理解し、段落ごとに整理してまとめている。	順序に沿った述べ方に気づき、その構成の工夫について理解している。

評 価 規 準				評 価					
話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	K	Y	W	M	N	Y
		教材文の内容から、疑問や読み深めたいことを明らかにしている。	新出漢字や語句について理解している。						
		内容のまとめりから、文章構成をとらえている。	順序に沿った述べ方に気づき、その構成の工夫について理解している。						
		ニュース作りのために、教材文を読む視点を明確にしている。	順序に沿った述べ方に気づき、その構成の工夫について理解している。						
		ニュースを伝えるまでの手順を理解している。	順序に沿った述べ方に気づき、その構成の工夫について理解している。						
		番組作りのそれぞれの過程で大事な点や気をつけることを正確に読み取っている。	順序に沿った述べ方に気づき、その構成の工夫について理解している。						

ま と め る	6 ・ 7	教材文の要旨をとらえ、「わたしの特集」というテーマの企画書を書く。 「その中から～作っているのです。」に着目させ、要旨をとらえさせる。	教材文の要旨をもとに、誰に、どんな目的で伝えるかが明らかになるように企画書を書く。	目的意識をもって、企画書を書いている。
	8 ・ 9	前時までの学習と、「工夫して発信しよう」から、情報発信までの手順を確認し、企画会議を開く。	企画書をもとに企画会議を開き、情報発信の見通しをもつ。	自分たちの力で情報を発信していきたいという願いをもっている。
	10 ・ 11 ・ 12 ・ 13	計画にしたがって取材をしたり、教科書p44「編集して伝える」を参考に、編集したりする。	計画に沿って、取材や編集等を進め、ニュースを作る。	伝えたいことが明確に伝わるように、計画にしたがって取材したり、編集したりしている。
	14	情報を発信し、発信側の意図と受信側の感想を交流する会を開く。		自分が伝えたいことを、相手にわかりやすく伝えようとしている。
	15	自己評価したものをもとに情報の発信や受信について話し合う。	活動を振り返り、情報の発信、受信について自分の考えをまとめる。	情報の発信と受信について考えを深めている。

	読み取ったことを生かして、それを自分の身の回りの出来事や伝えたいと思う事柄と関連づけて、企画書を書いている。	要旨を正確にとらえている。	順序に沿った述べ方に気づき、その構成の工夫について理解している。						
	目的に沿った企画書を書いている。								
	・目的に応じて、必要な材料を集めている。 ・教材文から学んだ編集や発信の方法を生かし、原稿を書いている。		伝えたい内容がよりわかりやすくなるように、構成を工夫している。						
	自分の伝えたいことや意図が伝わるように、話の組み立てを工夫しながら、適切な言葉遣いで話している。								
	学習したことを踏まえ、自分の考えを明確にして書いている。								

3 単元の目標及び指導計画 評価規準

第6学年 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

「平和のとりでを築く」(6時間) 「自分の考えを発信しよう」(9時間)

《単元の目標》

【国語への関心・意欲・態度】

- ・ 筆者の訴えを受けて自分なりの考えをもち、「平和」について関心を持って読もうとする。
- ・ 「平和」について考えを深めるために、話し合ったり、書いたりしようとする。

【書くこと】

事実と意見を区別して書いたり、対立する意見を取り上げて反論を述べたりすることができる。

【読むこと】

筆者が用いている言葉や文章の構成から、「平和」についての筆者の訴えを読み取ることができる。

【言語についての知識・理解・技能】

文章にはいろいろな構成があることを知り、その意図や効果を考えることができる。

《単元の指導計画と評価規準》

段階	時間	学 習 活 動 重要語句の取り扱い	一 人 学 び	評価規準
				国語への 関心・意欲・態度
つかむ	1	単元の流れを見通した上で教材文を読み、読みの課題を共通認識する。 《わたしは、～思わずにはいられなかった。》に着目させ、述べられている話題をとらえさせる。	筆者の思いや訴えに気をつけながら、文章構成を考える。	戦争や平和に関して、ニュース番組で視聴したり新聞で読んだりしたことを進んで発表している。
ふかめる	2	原爆ドームがたどってきた歴史を読み取る。 《物産陳列館》《多くの市民に親しまれていた。》《原子爆弾投下》《原爆ドーム永久保存》に着目させ、原爆ドームがたどってきた歴史をとらえさせる。	時間に経過に沿って、原爆ドームがどんな歴史をたどってきたか、ノートにまとめる。	原爆ドームがたどってきた歴史を、時間の流れの中でとらえようとしている。
	3	原爆ドームが世界遺産に登録されるまでの筆者の思いを読み取る。 《世界遺産》《決定の知らせが～感じたのだった。》に着目させ、筆者の思いを読み取らせる。	原爆ドームが世界遺産に登録される過程で、筆者の思いがどのように変化したか、ノートにまとめる。	筆者の思いがどのように変化したか読み取るようとしている。
まとめる	4	要旨をとらえ、文章構成の工夫について考える。 《人の心》《平和のとりでを築く》《世界遺産》に着目させ、筆者の訴えが示されている部分を読み取らせる。	筆者が最も訴えたいことは何なのか、根拠を明らかにして示す。	自分が読み取ったことを、根拠を明らかにして示そうとしている。
	5 (本時)	読みを確かめるための視点に沿って書き込みをし、筆者の訴えたいことを自分なりの言葉で書きまとめる。	筆者の思いが強く感じられる部分にサイドラインを引き、筆者が読者に訴えようとしていることをまとめる。	筆者の訴えたいことを読み深めようとしている。
	6	筆者の伝えたいことに対して、自分の考えをまとめる。	筆者の考えを受けて、自分が戦争や平和について考えたことをまとめる。	自分が考えたことを、事例を挙げるなどしてわかりやすく伝えようとしている。

《単元の評価規準》

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
・「平和」についての自分の考えを深めようと、関心を持って読んでいる。 ・自分の考えと他者の考えを照らし合わせながら「平和」について考えを深めようとしている。	根拠となる事実をもとにして意見を書いたり、意見の違いを明確にして自分の考えを述べたりしている。	筆者の用いている言葉や文章構成から、筆者の考えを自分なりの言葉でまとめ、自分はどうに考えるかを明確にしながら読んでいる。	教材文の文章構成から、自分の考えを伝えるためにはいろいろな構成があることを知り、その意図や効果を考えている。

評 価 規 準			評 価			
書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能	Y	K	M	K
	話題をとらえ、文章全体を内容のまとまりから4つに分けている。	新出漢字や語句について理解している。				
	具体的事例についての事実や時間の流れを押さえ、原爆ドームがたどってきた歴史を読み取っている。	文章構成に着目し、読み取りに必要な部分を選んでいる。				
	具体的事例についての事実や時間の流れを押さえ、原爆ドームが世界遺産に登録されるまでの筆者の思いを読み取っている。	文章構成に着目し、読み取りに必要な部分を選んでいる。				
	筆者が最も訴えたいことを、根拠を明らかに示している。	文章構成の工夫に気づき、筆者がなぜこのような文章構成を用いたのか考えている。				
	読みを確かめる視点に沿って、筆者の訴えたいことを読み深めている。	筆者の訴えを示すために意図して用いられている言葉があることに気づいている。				
	筆者の考えを踏まえた上で、自分の考えを明らかにしている。					

広げる	7	発信する目的と相手、課題、方法を定める。	話し合いを受けて、戦争や平和について自分が調べたことを明らかにする。	「平和のとりでを築く」の内容を意識しながら、「平和」について読んだり、話し合ったり、書いたりしようとしている。
	8 ・ 9 ・ 10 ・ 11	現在の時点で考えていることを「仮の要旨」としてまとめ、それに説得力をもたせる材料を集める。	必要な本を読み、自分の考えを深める。	自分の考えを深めるために必要な本を読もうとしている。
	12	集めた材料から、自分の考えを書きまとめるためのメモを作る。	自分の考えを深めたり、わかりやすくしたりするためのメモを作る。	自分の考えを深めるために必要なメモを整理している。
	13 ・ 14	メモをもとに自分の考えを書きまとめる。	自分の考えを書きまとめる。	相手にわかりやすく伝わるように、自分の考えを書きまとめるようとしている。
振り返る	15	この単元での学習を振り返る。		評価の視点に沿って、自分の学習を振り返ろうとしている。

自分が調べたことを明らかにし、活動の見通しを持っている。					
自分の要旨に説得力を持たせるために必要な材料を集めている。		わかりやすく伝えるための構成を工夫している。			
集めた材料の中から必要なものを選択し、自分の意見が伝わるように組み立てを考えている。		わかりやすく伝えるための構成を工夫している。			
具体的事例と意見、反対意見とそれに対する反論などを、読み手にわかるように書き分けている。		わかりやすく伝えるための構成を工夫している。			

目的に応じた伝え方を考えよう  
「ニュース番組作りの現場から」 筆者 清水 建宇  
必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫する。(読オ)  
関 自分が必要とする情報をすすんで読み取る工夫をする。  
読 自分たちが番組を作るために必要な事柄を時間の順序にしたがって段階ごとに読み取ることが出来る。  
言 文章にはいろいろな構成があることを知り、その構成の工夫を考えることができる。

文章構成図	まとめ	問題解決		話題提示		意味段落	要旨
		制作者の願い	ニュース番組ができるまで	ニュース番組作りの過程を見よう			
	<p>おどろき、疑問、取材、答え、伝えたいこと、インタビュー、さつえい、材料</p> <p>その中から、見ている人に知らせる値打ちがあると思つことを選び、また知つてほしいという願いを込めて、ニュース番組を作っているのです。</p>	<p>(7) 放送 「噴火につながるような現象は、いちばんの防災です。」 取材を重ねてきて最も伝えられたこと</p> <p>(6) 放送原稿の作成 文章の書き方の工夫・・・結論 理由 一文は短く 主語と述語の間を空けない、地図や表</p> <p>(5) 編集 これまで行われなかった訓練がなぜ実現したか、訓練に参加した住民はどの思ったか、その答えがわかるように。</p> <p>(4) 撮影開始 映像も大きな役割 画面のどこかに富士山が移るように 避難訓練にアナウンサーも参加</p> <p>(3) スタッフの会議 どいつの内容を中心に伝えるか ビデオ映像、誰にインタビューするか、どこでさつえいするか。</p> <p>(2) 取材開始 地元の観光業者に問い合わせ 富士山の噴火に関する資料集め 取材でわかったこと なぜ富士山の噴火に備えた訓練がこれまでできなかったのか。 住民の間に、あまり危機感がなかった。 観光客に不安を与えてしまったため、噴火に備えた訓練には積極的ではなかった。 このような住民感情から、県も防災訓練の実施に踏み切れなかった。 訓練をしようとした理由 富士山が現在も活動中の火山であることを、住民が改めて知った。 有珠山の噴火から、訓練の大切さを学んだ。</p> <p>(1) デスク、ディレクター、アナウンサーの三人で会議 なぜ富士山の噴火に備えた訓練がこれまでできなかったのか。 なぜ訓練をすることになったのか。・・・この二つの疑問を中心に取材</p>	<p>富士山の噴火に備えた初めての訓練</p> <p>おどろき 多くの人の関心を呼ぶ話題</p> <p>特集として伝えること</p> <p>ニュース・・・大勢の人に伝えられる出来事 事件や災害、政治や経済の動き、スポーツ、気象情報 多くの人が関心をもちそうな話題 関心をもってもらいたい話題 特集</p> <p>あるニュース番組作りで、防災訓練が特集として取り上げられるまでの過程を見よう。</p>	<p>～見ました</p> <p>～さつそく 放送の十六日前</p>	<p>～そして、～伝えることにしました。</p> <p>～過程</p>	<p>手がかりになる語句</p> <p>重要語句</p>	<p>番組作りの出発点は、番組作りを行う人、つまり伝えたいと考えた人が驚きや疑問を抱くことである。その驚きや疑問を的確に伝えるためには、綿密な取材が必要であることも、取材を通して見えてきた答えを分かりやすく伝えるために編集をし、伝えたいことの中心を明らかにしていくことが大切である。</p> <p>そして制作者は、どの過程においても「伝えたい」「分かってほしい」という願いを持続し、それを膨らませていくことが何より重要である。</p>

4 教材分析表

第六学年  
単元名  
教材名  
指導内容  
指導目標

筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう  
「平和のとりでを築く」 筆者 大牟田 稔  
必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫する。(読オ)  
筆者の訴えを受けて自分なりの考えをもち、「平和」について関心を持って読もうとする。  
読 筆者が用いている言葉や文章の構成から、「平和」についての筆者の訴えを読み取るができる。

文章構成図	まとめ	説明2	説明1	話題提示	意味段落	教 材 分 析	手がかりになる語句	重要語句			
	筆者の訴え	世界遺産への道のり	原爆ドームがたどってきた歴史	原爆ドームへの筆者の思い	形式 段落						
<p>1</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p>	<p>原爆ドームは、 原子爆弾が人間や都市にどんな被害をもたらすかをわたしたちに無言で告げている。 未来の世界で核兵器を「一度と使ってはいけない」、いや、核兵器はむしろ不必要だと、世界の人人々に警告する記念碑なのである。 それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界遺産なのだ。</p>	<p>わたしは、世界の人人々の、平和を求める気持ちの強さを改めて感じたのだった。</p> <p>原爆ドーム・・・戦争の被害を強調する遺跡 規模が小さいうえ、歴史も浅い遺跡 認められるどころか 心配は無用だった</p> <p>世界遺産・・・人間の歴史に大きな役割を果たした文化遺産 地球上にある貴重な自然遺産 例)ミッド、オリンピア遺跡、姫路城、屋久島</p>	<p>原爆ドームは、もともと、物産陳列館として建てられ、多くの市民に親しまれていた。一九四五年の原爆投下によって、この建物は全焼し、れんがと鉄骨の一部を残すだけとなった。「一刻も早く取り壊してほしい」という意見も出たが、急性白血病でなくなった一少女の日記がきっかけで、原爆ドームは永久保存されることになった。</p> <p>原爆ドームの保存 「あの痛ましい産業奨励館だけが、いつまでも、恐ろべき原爆のことを後世に訴えかけてくれるだろう。」 保存を願う手紙や寄付 補強工事 今の形を保っている。</p> <p>原爆ドーム永久保存</p>	<p>原爆ドーム コネスコの世界遺産</p> <p>わたしは、建築されてからの口まで、「この傷だらけの建物がたどってきた年月を思わずにはいられなかった。」</p>	<p>わたしは、 一九一五年 この建物は また、 一九四五年 この建物は</p>	<p>「原爆ドーム」 物産陳列館 多くの市民に親しまれていた。</p>	<p>原爆ドームは、後世まで、それを見る世界中の人人々の心に、核兵器の使用禁止、さらには戦争を許さず、平和を守っていく強い意志を築くための世界の遺産なのだ。</p>	<p>原爆ドーム コネスコの世界遺産</p>	<p>わたしは、 戦争の被害を強調する遺跡 規模が小さいうえ、歴史も浅い遺跡 認められるどころか 心配は無用だった</p>	<p>わたしは、 戦争の被害を強調する遺跡 規模が小さいうえ、歴史も浅い遺跡 認められるどころか 心配は無用だった</p>	<p>わたしは、 戦争の被害を強調する遺跡 規模が小さいうえ、歴史も浅い遺跡 認められるどころか 心配は無用だった</p>

5 本時の指導

(1) 目標

- 開 放送までの経過に着目して、ニュース番組作りの手順を読み取ろうとする。
- 読 ニュースを伝えるまでの手順を理解することができる。

(2) 展開(4/14)

・指導上の留意点 開読評価	学 習 活 動	段階	形態
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習する部分は、問題解決の段落であり、「ニュース番組ができるまで」が示されていることを確認する。</li> <li>・「順序」が大事であることを確認する。</li> <li>・音読の視点として、「文末表現」に目を向けさせる。</li> <li>・「は～」、「～しました。」など、誰が、何をしているのかに着目すればいいこと、順序を表す言葉や接続語が手がかりになることに気づかせる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 前時までの学習を振り返りながら、本時の学習範囲を確認する。 ・第二のまとめ</li> <li>2 本時の学習課題を把握する。 ニュース番組を作る手順を読み取ろう</li> <li>3 音読をする。</li> <li>4 一人学びの見通しを持つ。 ・報道スタッフがどんな作業をしているか順序よく読んでいくことを確認する。 ・文章構成から、読む必要のある段落を考える。</li> </ol>	つ か む	12分
<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要語句《会議》《取材》《(2回目の)会議》《さつえい》《編集》《放送用原稿》《放送》を時間の経過に沿って順序よく整理することで、ニュース番組作りの手順をとらえさせる。</li> <li>開 放送までの経過に着目して、ニュース番組作りの手順を読み取ろうとしているか。(観察、学習プリント)</li> <li>・「取材」「撮影」「編集」等の語句の意味を確認することで、ニュース番組の作り方についての理解を深めさせる。</li> <li>読 ニュースを放送するまでの手順を理解できたか。(学習プリント、発言)</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>5 課題解決のための一人学びをする。 ・ニュース番組作りの「作業」をあらわす語句にサイドラインを引く。 ・ニュース番組を作る手順をノートにまとめる。</li> <li>6 課題解決のために学び合う。 <b>学び合いの視点</b> ・順序は正しいか。(どの形式段落に書かれているか。) ・語句の意味を理解できているか。(どんな作業をするのか確認する。)</li> <li>7 課題解決のまとめをする。 ・ニュース番組作りの手順を整理する。</li> </ol>	ふ か め る	31分
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュース番組作りの手順が理解できたかという視点で、「理解」の観点の評価を取り上げる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>8 本時の学習を振り返る。 ・意欲、表現、理解について、自己評価する。</li> </ol>	まとめ	2分

(3) 評価

評価規準	具体的評価規準		
	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する児童への手立て
ニュースを伝えるまでの手順を理解している。	ニュース番組作りの過程を、それぞれの段階のかかわりを考えながらとらえている。	ニュース番組作りの手順を正確にまとめている。	形式段落ごとに作業内容を押さえさせ、ニュース番組作りの順序に気づかせる。

5 本時の指導

(1) 目標

- 開 読みの視点を明らかにして、筆者の伝えたいことを読み深めようとする。
- 読 読みを確かめる視点に沿って、筆者の伝えたいことを読み深めることができる。

(2) 展開(5/14)

形態	段階	学 習 活 動	・指導上の留意点 開読評価
	つ か む	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 前時までの学習を振り返りながら、本時の学習内容を確認する。 ・筆者の伝えたいことを読み確かめる。</li> <li>2 本時の学習課題を把握する。 重要語句に着目して、筆者の訴えを読み深めよう</li> <li>3 読み深めるための視点を明らかにする。 ・第四段落の文章から、確かめたいことや疑問に思うことを挙げ、読み深めるための視点をもつ。(教科書にサイドラインを引く。)</li> <li>4 一人学びの見通しを持つ。 ・重要語句や題名などに着目することで、読み深められることに気づかせる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章全体を読み返し、筆者の訴えを読み深めていくことを確認する。</li> <li>・前時までに取り上げた重要語句に着目させ、意味やその言葉が用いられた意図を考えることで筆者の訴えを読み取らせる。</li> <li>・段落を視写し、読み深めたことを書き込んでいくことを確認する。</li> <li>・段落に、「人の心」という語句が繰り返し使われていることに気づかせる。</li> <li>・筆者が「平和のとりでを築く」という題名にした理由を考えさせる。</li> <li>開 自分なりに、読み深めるための視点を明らかにしようとしている。(発言、教科書)</li> </ul>
	ふ か め る	<ol style="list-style-type: none"> <li>5 課題解決のための一人学びをする。 ・重要語句の意味や役割から、筆者が訴えようとしていることを考える。 ・題名から筆者が訴えようとしていることを考える。</li> <li>6 課題解決のために学び合う。 <b>学び合いの視点</b> ・重要語句や題名に、どのような筆者の考えが示されているのか。</li> <li>7 課題解決のまとめをする。 ・学び合いや板書をもとにして、大事な言葉を落とさないように筆者の考えをまとめる。 原爆ドームは、核兵器の使用を禁止し、戦争のない平和な世界を作り上げていくという強い意志を世界中の人々の心の中に築くための世界の遺産なのである。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の意味を辞書で確認したり、自分が読み深めたことをノートに書き込んだりする活動を通して、自分なりの読みを明確にさせていく。</li> <li>・前時にとらえた要旨よりも、わかりやすくなるようにまとめさせる。</li> <li>・重要語句《人の心》《平和のとりでを築く》《世界の遺産》を取り上げ、筆者の平和に対する願いを感じ取らせたい。</li> <li>読 筆者の伝えたいことを読み深めているか。(ノート)</li> </ul>
	まとめ 2分	<ol style="list-style-type: none"> <li>8 本時の学習を振り返る。 ・意欲、表現、理解について、自己評価する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の訴えが読み深められたかという視点で、「理解」の観点の評価を取り上げる。</li> </ul>

(3) 評価

評価規準	具体的評価規準		
	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する児童への手立て
読みを確かめる視点に沿って、筆者の訴えたいことを読み深めている。	本時の学習を通して、考えが深まったことを明らかにして、筆者の伝えたいことをまとめている。	読み深めた語句を使って、筆者の伝えたいことをまとめている。	題名の「とりで」という語句にしばって、その意味をとらえさせる。

(4) 板書計画  
【第5学年】

ニュース番組作りの現場から

読み取りの視点

ニュース作りの手順

ニュース番組を作る手順を読み取ろう

読み取りの  
着眼点

番組スタッフがしたこと  
「は」「りました。」  
順序を正しく  
(時間の経過を表す言葉)

《放送十六日前》

(1) 会議(取材する内容) . . . . .

(2) 取材 . . . . .

    記事の材料を集める

《放送八日前》

(3) 二回目の会議(中心となる内容) . . . . .

(4) さつえい . . . . .

    映像をとる

《放送二日前》

(5) 編集 . . . . .

    いろいろな材料を整理してまとめる

《同時に》

(6) 放送用原稿の作成 . . . . .

(7) 放送 . . . . .

【ニュース番組ができるまで】

会議(取材する内容) 取材 2回目の会議(中心となる内容)

さつえい 編集 放送用原稿の作成 放送

【第6学年】

平和のとりでを築く

重要語句に着目して、筆者の訴えを読み深めよう

筆者の考えを読み取るには . . . . .

重要語句に着目 「人の心」「平和のとりでを築く」

「世界の遺産」

題名に着目

国連のユネスコ憲章には

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、  
守るためのもの」

人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」

と記されている。

一人一人が、平和を願い、  
戦争を許さない意志を . . . . .

原爆ドームは、それを見る人の心に

核兵器の使用を阻止する意志 世界の平和のために大切なもの

平和を守っていく意志 いつまでも大切にしていけるもの

平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。

原爆ドームは、核兵器の使用を禁止し、戦争のない平和な世界を作り上げていくという強い意志を世界中の人々の心の中に築くための世界の遺産なのである。